

# 株出し栽培に適するサトウキビ多収品種「はるのおうぎ」

「はるのおうぎ」は、「農林8号」に比べて原料茎重が重く、甘蔗糖度は同等で、株出し萌芽性に優れ、風折抵抗性が強い

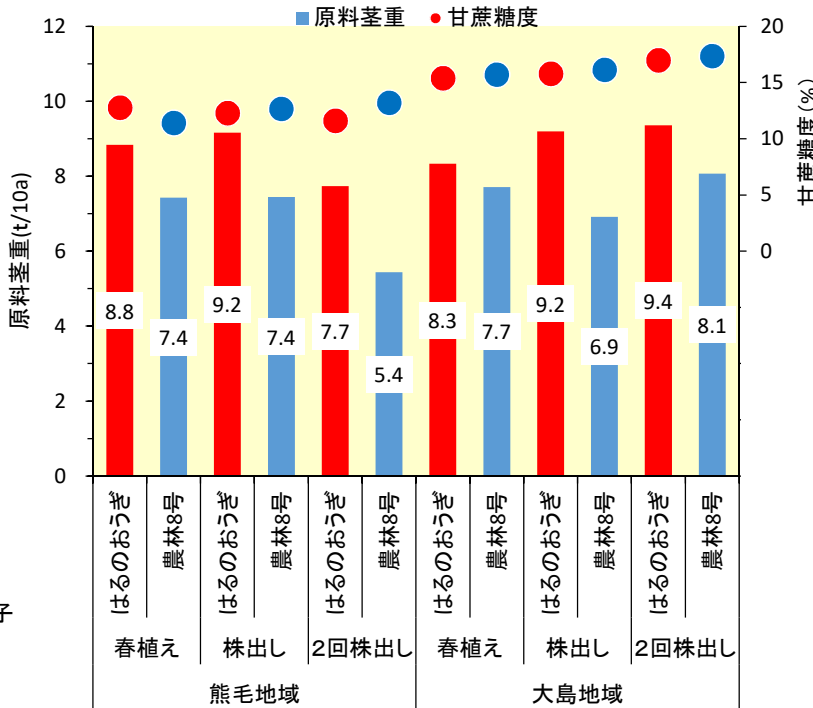
## 背景・目的

- ・サトウキビ経営の規模拡大に伴い、収穫、管理、植付等の作業が一時期に集中し、労働力競合により管理、植付の作業が遅延
- ・株出し栽培の回数が増加することで単収は低下傾向
- ・株出し萌芽性に優れ、多回株出しに適する多収品種の選定・普及が必要

## 成果の内容

### 「はるのおうぎ」の特徴（「農林8号」と比較）

- ・株出し、2回株出し栽培での萌芽性に優れ、原料茎数が多い（3回株出し栽培でも萌芽性に優れ、生育初期の茎数が多い）
- ・春植え・株出し・2回株出し栽培ともに、原料茎重が重い
- ・脱葉性は“難”，黒穂病抵抗性は“弱”，風折抵抗性は“強”



2回株出し栽培における初期生育の様子  
(熊毛支場)  
株出し管理: 平成31年2月20日  
撮影日: 令和元年6月11日

## 期待される効果

○サトウキビ生産量の底上げ

「農林8号」の一部を置き換え、安定生産によるサトウキビ生産の維持・向上を実現

○安定した多回株出し栽培と、3～4年毎の新植で栽培面積を確保



株出し管理①  
株揃え作業



株出し管理②  
スクープによる中耕作業

新植の調苗や植付に係る作業時間を  
収穫や管理作業に当てることが可能

○普及対象・範囲

熊毛・大島地域サトウキビ栽培農家  
〔干ばつ地域での栽培は避ける〕

鹿児島県農業開発総合センター  
熊毛支場作物研究室・徳之島支場作物研究室